

(様式1)

平成26年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 056	提案機関名 自然環境保全センター
要望問題名 野生動物の餌資源となる樹種導入技術に関する研究	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 昨年度、要望した「野生動物と共存できる森林管理・施業の研究」に関連して、人工林を混交林化する際に、森林棲の野生動物の餌資源となる樹種の導入を図るための技術に関する研究開発を要望したい。 例えば、野生動物の生息調査や自然林再生に取り組む活動団体等との協働により、野生動物の糞に含まれる種子を活用した育苗・植栽、播種等の試験や、野生動物の餌資源となる樹種に着目した種苗生産・導入技術の開発、こうした樹種の豊凶に関する調査研究等を、当課及び自然再生企画課とも連携して実施していただきたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術所 ③水産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	自然環境保全センター	担当部所	研究連携課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 水源林広葉樹育成事業		
対応の内容等	広葉樹の苗木生産に関しては、水源林広葉樹育成事業により、地域性種苗生産の取組として県内に自生する16種の広葉樹について母樹の選定、豊凶の調査、種子の採取、苗木生産者による苗木生産を進めているところ。この中には、ブナ、ミズナラ、ヤマボウシ、ヤマザクラなどクマなどの野生動物の餌資源となりうる樹種の苗木生産も実施しています。またクマ餌資源となりうる種子については、県内で採取したクマ糞や種子の調査を行っているボランティア団体より試料の提供を得られる見通しとなったことから、こうした材料から今後種子の状況や発芽率を検討して、クマ等の餌となりうる多様な樹種の苗木生産の検討を進めてまいります。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			